

# 教育振興基本計画部会における情報提供 社会教育、教育と地域の連携

～公民館を中心に考えてみる～

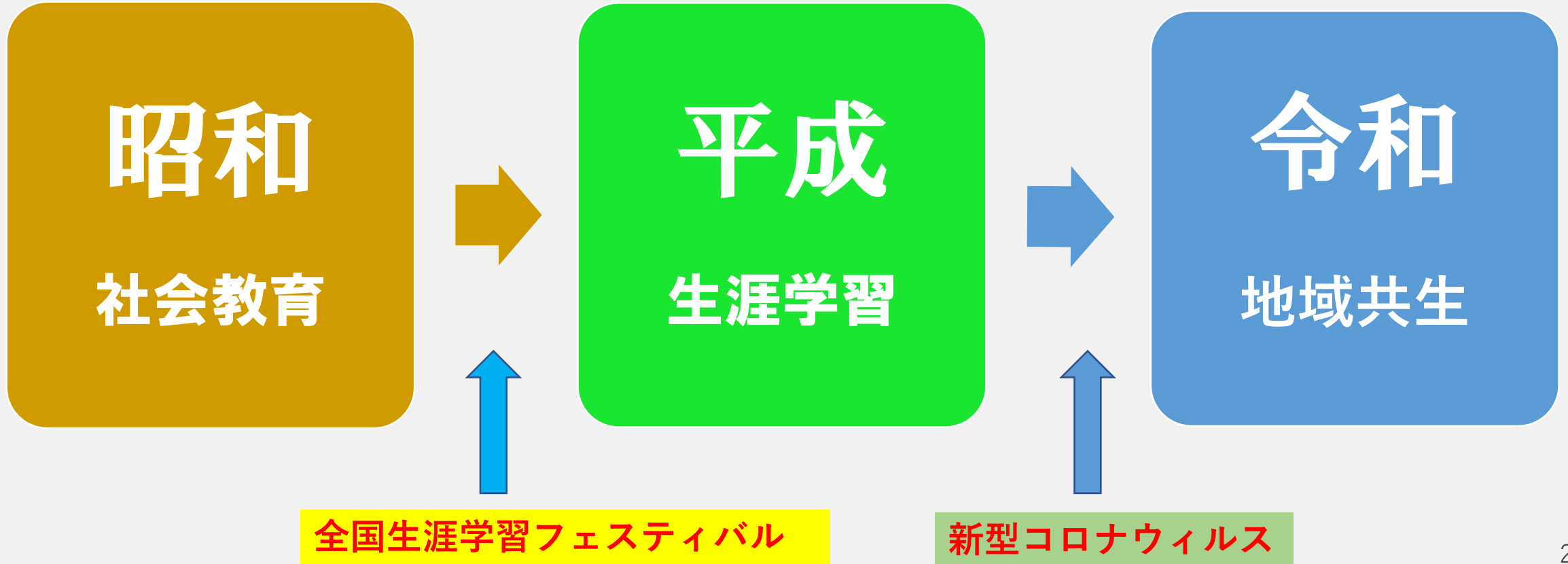
委員 関 福生

(新居浜市生涯学習センター)



# 新しい学びは 新しい革袋に

提供側が持っている理念と  
市民が抱く概念の乖離



# 公民館の現状について

最盛期（平成11年度）には18,257館

⇒平成30年度は13,632館に減少

市町村合併・行財政改革の影響

コミュニティセンターへの移行

公民館という名称は変わっても、

公民館機能は変わらず存在し、

むしろ、公民館機能への期待は高まっている。

# 公民館への期待が高まっている理由

1. 地域を特定した施設 コミュニティと直結
2. これまでに蓄積してきた社会関係資本
3. 自分たちでまずはやってみる補完性原理
4. “交換の論理”ではなく“贈与の論理”で動く
5. 住民が主人公になれる場
6. 学校や子どもたちとの関係性

# 子ども達とのつながり

## 恩送り

大人は、だれも、はじめは子どもだった。究極の共通体験  
よき思い出も、苦かった思い出も、ガキ大将の体験も  
いつの間にか、懐かしい思い出に変わっていく。

学校支援地域本部事業の際に言われたセリフ

「声かけてくれてありがとう！ やっと義理が果たせた！」

帰巢本能を口にするなら、子どもの頃の種まきが必要

# “課題解決学習” というよりも ウェルビーイング・ターゲットの実現

大人も子供と一緒にアクティブラーニング

みんなで発見する。何が幸せなのか

主体的に

色々な角度から、ターゲットを見極める

対話的に

成果を評価し、次のステージに歩みだす

深い学び

子供たちの探求型の学習と連動することができれば

学校・子供たちと一緒に、地域も元気に、そして幸せになる

これが、CS・地域学校協働活動で目指す理想では

## ウェルビーイング ターゲットは地域 に沢山ある

各地域の実態に応じて、何が一番大事なことから、自分たちに何ができるかを見極める。

1. 健康寿命を延伸しよう！
2. 子供たちの安心を支え、可能性を伸ばそう！
3. 障がい者や外国人と共に生きていこう！
4. 空き家を有効活用するための知恵を探ろう！
5. ホタルが舞う、清流を取り戻そう！

行政課題との接点も多い⇒首長部局との親和性大  
地域運営組織とも、同じベクトルにある

# 公民館の 場の機能を 高める

---

ICT環境は最低限の社会資本

---

デジタル田園都市構想の中核施設になる。

---

デジタルデバイドを解消すること

---

安全や知らないと不利益になる状態は解消

---

“役に立つ公民館”になる

---

子ども達が高齢者に教え、つながりを生む

---

リモート講座で広がるつながりの学び

---



# 社会教育士の活躍の場を創る

2年間で約2,500人が称号付与されたことの意義  
職業上の資格それとも自らのミッションの達成のための自己啓発  
活躍できる場がなければ、自然消滅に至るのではという危惧  
行政の教育専門職である社会教育主事とは違う存在  
自分の得手・経験知を活かして、それぞれの領域で活躍する人材に  
これからの資質向上には、同志の緩やかなネットワークが必要  
ウェブ上での交流プラットフォーム 研修機会・講座の共同開催  
以前の“公民館海援隊”のように文部科学省が音頭を取れば安心

令和の公民館が  
目指すべき  
方向性は

---

みんなの幸せを実現するために

---

一人ひとりが思いを語り合い

---

みんなが納得できる答えを見出し、

---

各々できる力を発揮し、実現を目指す

---

ともに喜び合う場（協調的な幸福感）

---

公民館はウェルビーイング創造センター

---

公民館 =

**幸民館**